

多摩市レイキャビク市との姉妹都市提携検討市民懇談会
開催報告書

令和8年（2026年）1月

目次

1	開催目的と概要	P.1
2	これまでのアイスランドとの交流の経過と現況	P.1
3	懇談会における意見	P.3
4	懇談会の総括意見	P.5

【付属資料】

- 資料1 多摩市とアイスランドとの主な交流年表
- 資料2 市民アンケートの実施概要と結果
- 資料3 多摩第三小学校の児童ヒアリング
- 資料4 多摩市レイキャビク市との姉妹都市提携検討市民懇談会設置要綱
- 資料5 多摩市レイキャビク市との姉妹都市提携検討市民懇談会委員名簿

1 開催目的と概要

多摩市は、令和元年（2019年）8月に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会アイスランド選手団の事前キャンプ地に決定したことを契機に、アイスランドと親交を深めてきた。この交流がアイスランドの首都レイキャビク市でも知られることとなり、令和7年（2025年）4月にレイキャビク市より姉妹都市提携について打診を受けた。姉妹都市提携にあたっては、市民の意見を反映し、市民に理解してもらう必要があるとの市の考えにより、市民の意見を反映するため、「多摩市レイキャビク市との姉妹都市提携検討市民懇談会」（以下、懇談会と略す。）が設置されることとなった。

本懇談会は、学識経験者のほか、アイスランドとの交流事業に関するイベント等の運営に従事する市民、地域団体の運営に従事する市民、公立教育施設における業務に従事する市民、スポーツ・文化芸術活動に携わる市民で構成され、姉妹都市提携をするべきか否か、その他姉妹都市提携に関し多摩市長（以下「市長」という。）が必要と認める事項について検討及び協議を行い、その結果を市長に報告することを目的に開催された。

2 これまでのアイスランドとの交流の経過と現況

本懇談会にて議論を始めるにあたって、これまでのアイスランドとの交流の経過と現況について確認を行った。

（1）交流のきっかけ

多摩市とアイスランドの交流は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした事前キャンプ地に決定したことから始まった。多摩市がアイスランドオリンピック選手団の事前キャンプ地として立候補した発端は、平成30年（2018年）11月に東京都内で開催されたANOC（国内オリンピック委員会連合）総会の事前キャンプ誘致ブースにおいて、アイスランド国立オリンピック・スポーツ協会の事務総長と多摩市の誘致担当者が名刺交換をした出会いにある。その後、アイスランドは、世界一男女平等な国で、自然豊かなエネルギー政策先進国であり、市が取り組む持続可能なまちづくりにとって、交流を進めていく上で見習うべき政策が多く見受けられることから誘致を進めることを多摩市として決定し、平成31年（2019年）3月の市内視察を経て、同年8月に事前キャンプ実施に関する覚書が、アイスランド国立オリンピック・スポーツ協会、多摩市、学校法人国士館の三者間で締結された。その後、同年12月27日に全国の自治体で初めてアイスランドのホストタウンとして登録された。

事前キャンプは、令和3年（2021年）7月18日から開始し、アイスランドオリンピック選手団総勢8名が多摩市で練習を行った。続いて、8月16日からはアイスランドパラリンピック選手団総勢16名が多摩市で練習を行った。緊急事態宣言下ではあったが、感染防止対策を行いながら、オンライン交流会や公開練習見学等の市民との交流、選手達に向けて日本文化を体験するレクリエーション等、様々なホストタウン交流事業が実施された。

（2）東京2020大会当時の交流

令和2年度（2020年度）は、新型コロナウイルス感染拡大により交流事業は中止や延期となったが、令和3年度（2021年度）に入り、市内において交流事業が行われた。駐日アイスランド大使が、多摩市で行われた様々な事業に参加し、令和3年（2021年）3月27日には、多摩センターにおいて事前キャンプの際の宿泊施設やその周辺を視察したほか、多摩市国際交流センター主催の国際理解講

座に登壇しており、市民に向けてアイスランドの紹介がなされた。また、同大使館の商務・広報担当が、市内の小中学校を講師として訪問し、児童・生徒と交流を行った。

(3) 東京 2020 大会後の交流継続について

ホストタウン交流事業を通して、駐日アイスランド大使館と、現在、及び将来に向けて様々な交流を育て、両者の良好な関係と友好を深めることを目指して、令和3年(2021年)12月13日に「駐日アイスランド大使館と多摩市との友好協力関係に関する覚書」を締結した。覚書において、より具体的なホストタウン事業内容を示し、現在もこの覚書に基づいた交流が継続している。

多摩市では令和3年(2021年)以降継続的に、アイスランドの独立記念日である6月17日の前後9日間を「アイスランドウィーク」と定め、アイスランドについて学ぶ機会を提供するための事業を市内各所で実施している。アイスランドウィーク中の主な事業として、市内の小中学校全校の給食でアイスランドの伝統料理にちなんだ「アイスランド給食」の提供や、市内各所でアイスランドに関する情報や風景写真の展示、市内商業施設の協力によるアイスランドに関するブースの出店、キッチンカーやアイスランド大使館とコラボレーションしたアパレル販売、大使館職員による市内訪問など、市民がアイスランドを感じる多様な事業が行われている。

令和4年(2022年)6月19日には、桜ヶ丘コミュニティセンターを運営する市民により主催された「アイスランド DAY」の講演会に当時のステファン・ホイクル・ヨハネソン駐日アイスランド大使が登壇した。

令和4年(2022年)12月3日には、オリンピック・パラリンピック選手団の受入のお礼として、当時のグズニ・ヨハネソン大統領が多摩市を訪問し、歓迎会を実施したほか、市内にある株式会社サンリオエンターテイメント代表取締役社長の小巻亜矢氏と大統領による、女性活躍をテーマとしたトークセッションが行われた。

(4) 交流事業の拡大・レイキャビク市との関わり

令和5年(2023年)6月18日には、アイスランド大使館のアイスランド出身職員を講師として「アイスランド家庭料理教室」が実施された。料理教室では、大使館職員考案のアイスランド国旗をあしらったデザートや、アイスランド産ラムを使った「キョートスーパ(羊と野菜のスープ)」などを作ったほか、市民から大使館職員にアイスランドに関する質問などを行う交流がされた。また、多摩市国際交流センターの主催により、子ども達に向けてアイスランド大使館訪問イベントの取組が行われた。

このほか同年からは、多摩ニュータウン内でアイスランドの絵本等を翻訳出版する事業を営む、ゆぎ書房と、多摩市の連携が開始したことで、絵本をきっかけとしたアイスランドを理解する事業の展開がなされた。ゆぎ書房の前田君江氏と「世界ではじめての女性大統領のはなし」や「かいぶつ絵本シリーズ」の翻訳者である朱位昌併氏の講演会が12月16日に開催され、アイスランドの絵本についてのトークセッションのほか、市内の書店や施設で、「かいぶつ絵本シリーズ」を中心とする絵本の展示が行われた。その後、市内にスタジオを有する日本アニメーション株式会社と「かいぶつ絵本シリーズ」のアニメーションがゆぎ書房と共同作成され、広く市民に向けて上映された。これらの取組により、「かいぶつ絵本シリーズ」の原作者の1人であるアウスロイグ・ヨウンズドットイル氏が自身のブログで多摩市の取組を紹介し、多摩市の子どもに宛てたメッセージや直筆サインの入った絵本が贈られた。

令和6年(2024年)6月19日には、ステファン・ホイクル・ヨハネソン駐日アイスランド大使が

市内の小学校で児童たちと「アイスランド給食」を試食し、児童たちはアイスランドについて調べた成果を映像にまとめ大使に披露する交流が行われた。このほか、中学校などで講演会等を行い、子ども達がアイスランドについて触れ、学ぶ機会が提供された。6月23日には、アイスランド大使館のアイスランド出身参事官と翻訳者の朱位昌併氏が登壇し、アイスランド語でのトークセッションにより、市民がアイスランド語を体験する機会を提供した。

産学官民が連携して設立した「多摩市観光まちづくり交流協議会」では、食で魅力をつくり来訪・滞在・再訪を促すため、令和5年度から「多摩市食プロジェクト」に取り組み、「アイスランド風メニュー」を飲食店とともに提供する取り組みを開始した。令和5、6年度（2023、2024年度）はアイスランドウィークをはじめとする市内イベントや市外イベントでの販売、令和7年度（2025年度）には市内飲食店での「アイスランド風まちバル」を実施し、食を通じたアイスランドの魅力により来街者を増やす取り組みを継続して実施している。

これら様々な交流事業を実施してきたことを踏まえ、先述のとおりレイキャビク市より姉妹都市提携の打診が多摩市になされ、令和7年（2025年）5月28日には、レイキャビク市ヘイザ・ビョルグ・ヒルミズドッティル市長が多摩市を訪問し、「レイキャビク市と多摩市の友好関係構築に関する覚書」が締結された。これによって、友好関係を深め、姉妹都市提携に向けて検討・協議を進めることとなった。その後、11月には、アイスランド女性の90%が家事や仕事を休んだ日「女性の休日」に関するトークセッションが行われ、講師として、映画配給会社 kinologue の森下詩子氏とゆぎ書房の前田君江氏が登壇したほか、レイキャビク市職員もオンラインで登壇し、アイスランドの首都レイキャビク市での「女性の休日」50周年記念行事が市民に向けて紹介された。

そして、アイスランドと日本の友好関係に尽力した功績が称えられ、阿部市長が「アイスランド外務省名誉勲章」を受章することとなり、令和7年（2025年）12月12日に市役所にて伝達式が行われ、フレイン・パウルソン駐日アイスランド大使より、阿部市長へ勲章と記念品のアイスランド絵本『本当にやる！できる！必ずやる！アイスランドの「女性の休日」』（ゆぎ書房発行）が贈られた。

3 懇談会における意見

これまで多摩市が様々な機関・団体等と連携して取り組んできたアイスランド交流事業の成果や、今後の交流についての市民アンケート、市内小学校児童へのヒアリング結果を踏まえ、本懇談会においてレイキャビク市との姉妹都市提携について意見交換を行った。主な意見について以下の通り、姉妹都市提携の意義や課題、交流イメージに分類し整理する。

(1) レイキャビク市との姉妹都市提携に関する意見

（提携の意義について）

- 提携のメリットとして、「①先進的な行政・地域運営ノウハウの入手」「②青少年の国際対応能力の育成」「③多文化共生社会づくりへの寄与」「④経済的な利益（観光誘致等）」といった視点が考えられる。
- 交流の成果が一部の関係者だけでなく、広く市民に還元されることが重要。特に、子どもたちが他国の文化に触れる貴重な機会となる。
- 多摩市の魅力発信として、交流を通じて多摩市の魅力（自然、文化、市民活動など）を再発見し、発信していく好機となる。

- ・レイキャビク市との提携に基づく日本で唯一の交流を多摩市のブランディングにつなげることができる。

(課題について)

懇談会として否定的意見はなかったが、アンケート等で示された懸念点などについて、以下の課題や留意点が示された。

- ・提携の根本的な意義の整理として、姉妹都市提携によって多摩市が何を不得、何をレイキャビク市に提供できるのか、という「そもそも論」を明確にする必要がある。
- ・アンケートの回答数からは、アイスランド交流についての市民の認知や今後の交流についての関心が一部の市民にとどまっていることが伺える。また、回答内容について、今後の交流を前向きにとらえる意見が多くを占めるものの、参加者が一部に留まることなどへの懸念が見られた。今後の姉妹都市交流について、提携の意義やメリットを市民に広く伝え、理解と参加を促す必要がある。理解や気づきを得た市民が他の市民に伝えていく形で還元できるとよい。
- ・交流事業のコストについては、費用対効果や財源についての丁寧な説明が不可欠。
市が単独で実施する事業だけではなく、市民が企画主体となる交流事業で行う資金調達にあたっては、市が交流に力を注いでいることを示すことでスポンサーを探しやすくなるということもあり、事業実施後に成果を報告することで、さらに交流を後押しする機運が醸成されることが期待される。
- ・首都と地方都市の非対称性として、レイキャビク市は首都だが、多摩市はそうではない。この非対称性を理解し、お互いの強みを活かした対等な関係を築く視点が重要。
- ・継続性として、一過性のイベントで終わらせず、長期的に交流を継続していくための仕組みや担い手の育成が課題。積み重ねによって、市のブランドイメージも構築されていく。

(2) レイキャビク市との交流イメージに関する意見

交流を通して双方の市民が、相互に伝え合い、わかり合うことを通じて学び合うことには、大きな意義があるということが確認された。本懇談会において具体的な意見として以下の内容が挙げられた。

(教育・青少年交流)

- ・生徒にとって、教科書での学習とは異なる「生きた学び」の機会となり、例えば、価値観の変容や主体性が育つきっかけとなる。また、英語学習への動機付けに繋がることも期待できる。
- ・青少年のスポーツ交流は有効なコンテンツである。コミュニケーションの実践を通して、自己の成長につなげることができる。
- ・交流の手法としては、相互の学校訪問や、ビデオレター交換、オンライン交流などが考えられる。

(文化・芸術交流)

- ・レイキャビク市は人口規模が近い割に首都であり文化施設が充実している。文化・芸術分野での市民活動の交流も有効。
- ・アイスランドは出版文化・読書文化が盛んで本屋が多い。多摩市の図書館や書店と連携した交流へと展開していく可能性がある。

(産業・経済（食文化）・観光交流)

- ・過去に実施したアイスランドウィークでは、ヨーグルトの「スキル」やラム肉、魚介類等が好評だった。食を通じた文化理解と経済交流は市民にも分かりやすい。
- ・学校給食でのアイスランドメニュー提供は、子どもたちの興味関心を引く上で非常に効果的。

- ・ サンリオピューロランド等のレイキャビク市にはない多摩市の観光資源や、温泉・プール施設といった双方の市に存在する共通の観光資源を通じた交流ができると面白いのではないか。

(SDGs・先進事例の学習交流)

- ・ 世界トップレベルのジェンダーギャップ指数の背景にある社会制度や市民意識を学ぶことは、多摩市にとって大きな価値がある。
- ・ 再生可能エネルギーの活用や環境政策についても、先進的な取り組みから多くを学べる。

4 懇談会の総括意見

多摩市は、市の最上位の計画である第六次多摩市総合計画において、「地域で学び合い、活動し、交流しているまち」の実現に向けて、交流による多文化共生の醸成を進めることとしている。また、多摩市教育委員会では、「2050年の大人づくり」を掲げ、ESD（持続可能な開発のための教育）に取り組んでいる。

レイキャビク市との姉妹都市提携は、こうした市の取組を一層推進することが期待され、多くの市民が交流を通じて、レイキャビク市の先進的な取組や、くらしの考え方等に触れ、また、自らのまちの魅力も再発見することにより、学びを得て、より豊かで暮らしやすい多摩市の実現に寄与するものと考えている。

以上のことから、本懇談会では、姉妹都市提携を進めることに賛同する。

なお、姉妹都市提携や今後の交流にあたっては、特に以下に留意して進める必要があると考える。

- (1) 持続可能な交流関係を構築していくための仕組みを検討していくこと
- (2) 姉妹都市提携や交流の意義を市民に伝えていくこと
- (3) こども達の交流・学びに重点を置いた事業を進めること
- (4) 多くの市民が参加しやすい事業を行い、幅広い市民の理解を得ていくこと
- (5) 両市内の団体・事業者と連携した事業により、多面的な交流を目指すこと

【付属資料】

資料1 多摩市とアイスランドとの主な交流年表

資料2 市民アンケートの実施概要と結果

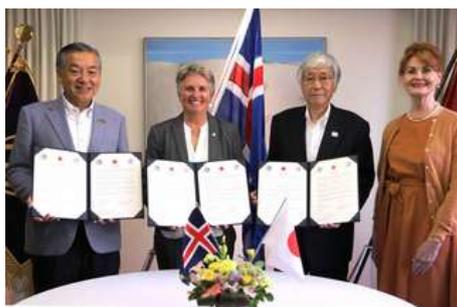
資料3 多摩第三小学校の児童ヒアリング

資料4 多摩市レイキャビク市との姉妹都市提携検討市民懇談会設置要綱

資料5 多摩市レイキャビク市との姉妹都市提携検討市民懇談会委員名簿

資料1 多摩市とアイスランドとの主な交流年表

- ・令和元年（2019年）8月 アイスランド国立オリンピック・スポーツ協会と選手団事前キャンプ地として覚書の締結
- ・令和元年（2019年）12月 ホストタウン第17次登録において全国の自治体で初めてアイスランドのホストタウンとなる
- ・令和2年（2020年）3月 アイスランド障がい者スポーツ協会と選手団事前キャンプ地として覚書の締結
- ・令和3年（2021年）6月 アイスランド独立記念日にあわせ「アイスランドウィーク」を初開催
令和3年（2020年）以降、毎年6月に実施
- ・令和3年（2021年）12月 駐日アイスランド大使館と友好協力関係に関する覚書を締結
- ・令和4年（2022年）12月 グズニ・ヨハネソン大統領が多摩市を訪問
- ・令和7年（2025年）5月 レイキャビク市ヘイダ・ビョルグ・ヒルミストッティル市長が多摩市を訪問
レイキャビク市と友好関係構築に関する覚書を締結
- ・令和7年（2025年）12月 多摩市長がアイスランド外務省名誉勲章を受章



キャンプ地覚書



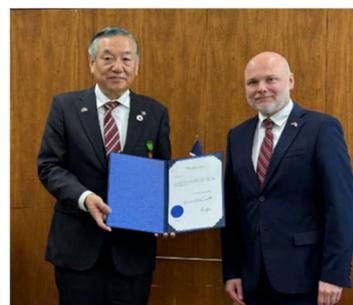
大使館覚書



グズニ大統領訪問



レイキャビク市覚書



外務省名誉勲章受章

資料2 市民アンケート実施概要と結果

<実施概要>

■アンケート実施期間

令和7年12月22日～令和8年1月15日

■周知方法

- ・無作為抽出2000人にはがき（13～59歳）
- ・市ホームページ
- ・市内掲示板、公共施設（図書館、コミュニティセンター等）

■回答方法

ロゴフォーム、一部紙（6件）

■回答数 42件

<集計結果>

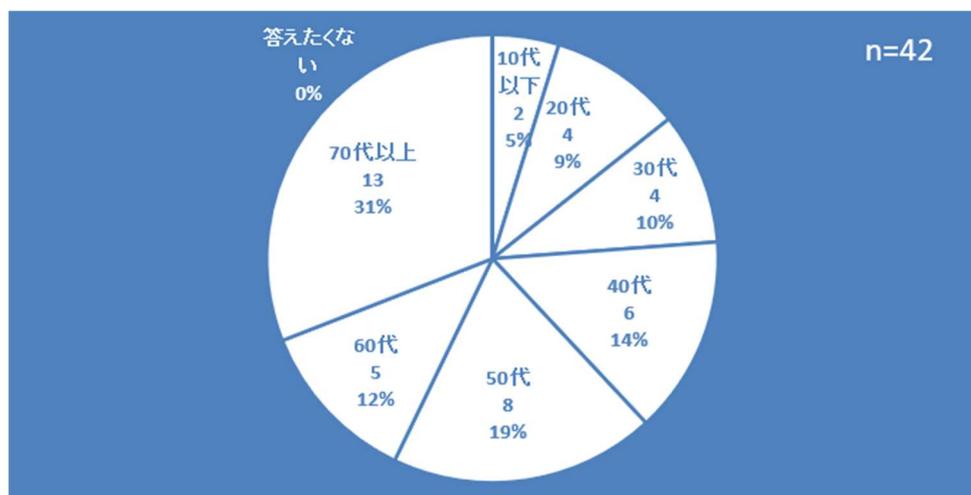
レイキャビク市との姉妹都市交流 市民アンケート

多摩市とレイキャビク市の姉妹都市締結について、ご意見をお聞かせください

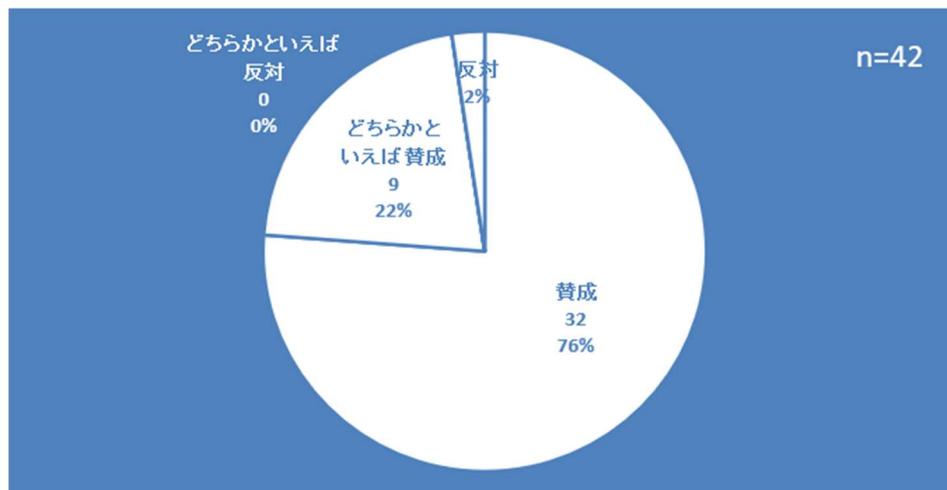
多摩市では、東京2020オリンピック・パラリンピック大会をきっかけに、アイスランドとの交流を続けてきました。（アイスランド関係者による講演会、アイスランド料理教室、学校でのアイスランド給食提供、展示など。詳細は市HP参照：<https://www.city.tama.lg.jp/kurashi/kouryu/1011531/index.html>）そうしたなかで、令和7年5月にアイスランドの首都レイキャビク市の市長が多摩市を訪問され、友好関係構築に関する覚書を締結しました。その際、レイキャビク市より姉妹都市締結の提案をいただきました。

こうした状況をふまえ、現在、市ではレイキャビク市と姉妹都市締結に向けて検討しています。このアンケートでは、レイキャビク市との姉妹都市締結への賛否、今後どのような交流を期待するか、心配な点などについて、市民の皆さまの意見をお聞きしたいと思います。賛成・反対どちらの意見も、今後の検討の参考にさせていただきます。

Q1. 回答者の年代



Q2.レイキャビク市との姉妹都市締結についてどう思うか？



Q3. Q2で回答した、賛成または反対の理由

■主な賛成理由

・国際的視野・平和への期待

グローバル化が進む一方で分断もある現在、多摩市が海外都市と姉妹都市になることで異文化に触れ、市民の見聞を広め、平和で穏やかな社会づくりに寄与できる。
世界の不安定な状況下で、友好関係を築く意義は大きい。

・教育・文化交流の促進

多摩市の国際化教育に効果的であり、若い世代の国際的視野の形成につながる。
交換留学、ホームステイを積極的に進めてほしい。
異文化との交流は楽しく、有益な経験であり、若い人への刺激になる。
多摩市民が実際にアイスランドに訪れる機会を望む。

・アイスランド（レイキャビク市）の特徴への高評価

男女共同参画が世界一進んでいる国であり、積極的に学びたい。
自然環境（火山活動など）が日本と似ており、国民性も真面目で多摩市に合っていると思う。
オリンピックから様々な交流の実績があり、引き続き発展させてほしい。

・多摩市の地域活性化

文化の違いを理解しあうことで、地域創生や豊かな暮らしにつながる。
多摩市にはまだ海外姉妹都市がなく、国際化のチャンスとして意義深い。

・税の使い道への理解

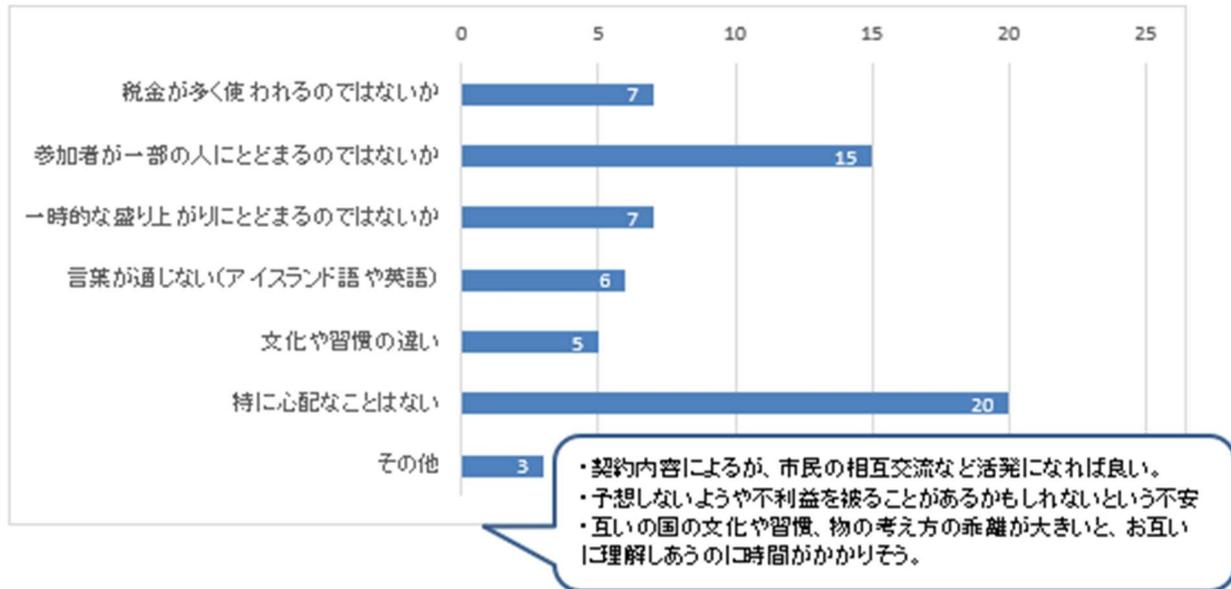
多摩市の税が使われるのであればそこに正当性があり、使い道を使う前に正確に提示して、市民に決を問うようにするならば反対する理由はない。このような公費の利用なら個人的には歓迎。

■ 反対理由

・多くの市民には関係のない話。ベネフィットが想像できない。税金、職員の労力をかけるに値するのか疑問。

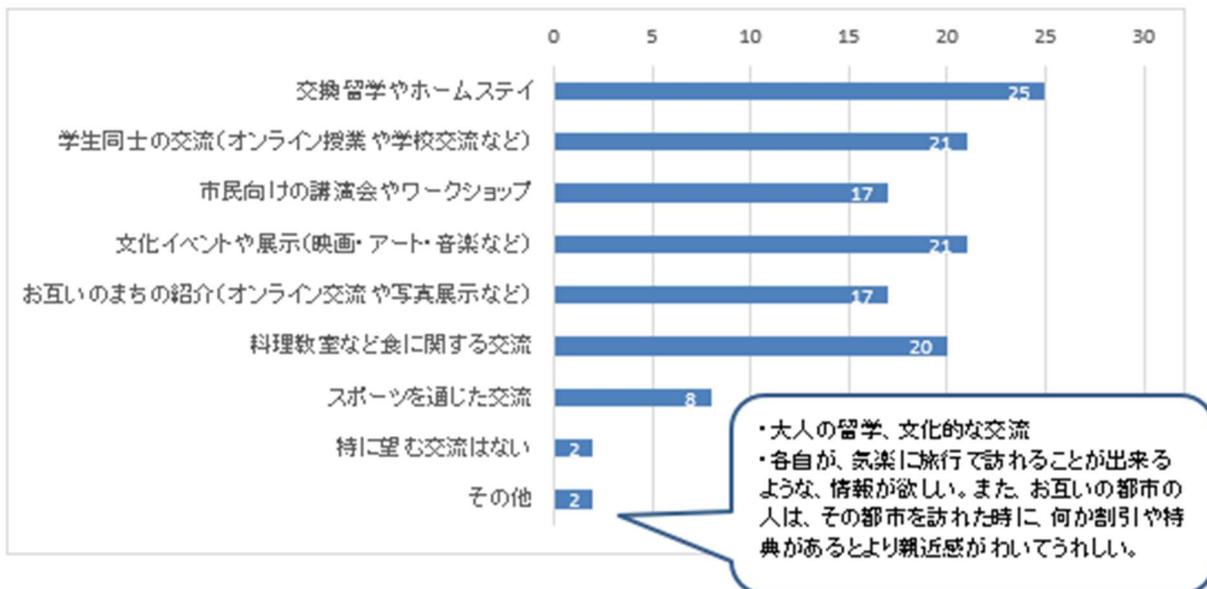
Q4. 姉妹都市締結にあたり、心配なこと（複数選択可）

n=42



Q5. レイキャビク市とどのような交流を期待しますか？（複数選択可）

n=42



Q6. レイキャビク市との姉妹都市締結について、自由意見

■肯定的、積極的意見

・文化交流の強化

お互いの民族文化（歌や踊り）をみせ合いたい。
市民や学生（小・中・高・大）の交流を進めてほしい。
多摩市民文化祭での文化交流。

・継続的な交流の重要性

一度きりのイベントではなく、継続的に交流ができると良い。
他国の都市や文化を身近に感じることで豊かな気持ちになれる。
世代間交流の必要性：
子供だけでなく、シニア世代との交流も大切であり、幅広い世代が関与することが望ましい。

・アイスランドとの交流への期待

アイスランドへの交換留学やホームステイの機会を提供してほしい、またレイキャビク市の学生を受け入れる側としても歓迎したい。

・観光と地域振興

レイキャビク市に対して多摩市の魅力が少ないので、もっと観光客を増やす税金の使い方をしてほしい。

・ジェンダー平等と社会の活性化

アイスランドのジェンダーギャップ指数の高さを参考に、多摩市でもジェンダー平等を進め、より活気ある街にしてほしい。

・国際交流の拡充

オリンピックのホストタウンとしての実績があるにもかかわらず、なぜ交換留学やホームステイがまだ実現していないのか。費用は自己負担でも、企画運営が市のバックアップがある安心感は大きいと思うので、小中学生など早い段階から国際感覚を養える機会を提供してほしい。

・幅広い世代の交流

学生だけでなく、社会人やシニア層も参加できる国際交流の機会を増やしてほしい。
多摩市が代表的な国際交流都市となるといい。

■否定的意見

特に興味を惹かれない講演会、少人数での料理教室で仕事をやったつもりになっている場合なのか。効果の少ない事業は切り捨て、少ないリソースを必要不可欠なところに注ぐような見直しをする時代になっているのではないか。姉妹都市なんかやらなくても誰も死なない。

資料3 多摩第三小学校の児童ヒアリング

実施日： 令和7年10月30日(木)

対象： 多摩第三小学校6年生 60名

経緯： 多摩第三小学校は、富士見町との友好都市交流において、3年前よりオーナメント作成を経緯に、移動教室で富士見町の小学校を訪問し、交流を重ねている。都市間交流を実施している学校であることからヒアリングを行った。

手法： 友好都市に関する出張授業として、市職員が講師として登壇し、授業の前半で富士見町での富士見町の小学校との交流体験について感想を聞いた。授業の後半において、その交流体験を踏まえつつ、レイキャビク市とは、どのような交流をしたいか等について、児童達に対してヒアリングを行った。

児童からの

- 主な意見：
- ・現地へ行ってみたい（観光やスポーツ交流などしてみたい）
 - ・現地の子供達とオンライン交流をしてみたい
（学校紹介、遊びの紹介、ちょっとしたレクリエーションなど）
 - ・現地の子供達にサンリオピューロランドを案内したい
 - ・双方の言語を紹介することで学びにもつながるのではないか

資料4 多摩市レイキャビク市との姉妹都市提携検討市民懇談会設置要綱

多摩市告示第480号

多摩市レイキャビク市との姉妹都市提携検討市民懇談会設置要綱を次のとおり定める。

令和7年12月8日

多摩市長 阿部裕行

多摩市レイキャビク市との姉妹都市提携検討市民懇談会設置要綱

(設置)

第1条 多摩市とレイキャビク市との姉妹都市提携（以下「姉妹都市提携」という。）の締結を検討するに当たり、市民等の意見を反映させるため、多摩市レイキャビク市との姉妹都市提携検討市民懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 懇談会は、姉妹都市提携の締結をするべきか否かその他姉妹都市提携に関し多摩市長（以下「市長」という。）が必要と認める事項について検討及び協議を行い、その結果を市長に報告する。

(構成)

第3条 懇談会は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱するもの（以下「委員」という。）7人以内をもって構成する。

(1) 学識経験者 1人以内

(2) 市民委員 次に掲げる者のうちから6人以内

ア 多摩市内においてアイスランドとの交流事業に関するイベントその他の事業等の運営に従事する者

イ 多摩市内において自治会その他の地域団体の運営に従事する者

ウ 多摩市内の公立教育施設における業務に従事する者

エ 多摩市内におけるスポーツ・文化芸術活動に携わる者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から令和8年3月31日までとする。

(会長及び副会長)

第5条 懇談会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。

3 会長は、懇談会を総括する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 懇談会の会議は、会長が必要に応じて招集する。

2 懇談会の会議は、会長が主宰する。

3 懇談会の会議は、原則として公開する。

4 会長は、会議に際し、原則として会議録を作成する。

(関係者の出席)

第7条 会長は、会議に際し、必要に応じて関係者の出席を求めることができる。

(庶務)

第8条 懇談会の庶務は、くらしと文化部文化・生涯学習推進課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、会長が懇談会に諮って定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和8年1月4日から施行する。
- 2 この要綱は、令和8年3月31日限り、その効力を失う。
- 3 第6条第1項の規定にかかわらず、この要綱の施行後最初の懇談会の会議は、市長が招集する。

資料5 多摩市レイキャピク市との姉妹都市提携検討市民懇談会委員名簿

属性	氏名（所属）
学識経験者	柴山 由理子（東海大学文化社会学部北欧学科准教授）・本会議委員長
市内でアイランド交流事業に関するイベント等の運営に従事する者	京増 多美恵（京王 SC クリエイションマネージャー）
	大島 真理子（多摩市国際交流センター）
市内において自治会その他の地域団体の運営に従事する者	赤澤 周平（ゆう桜ヶ丘運営協議会）
市内の公立教育施設における業務に従事する者	齊木 伸郎（諏訪中学校校長）
市内におけるスポーツ・文化芸術活動に携わる者	宮嶋 良考（多摩市ハンドボール連盟副会長）
	春田 祐子（多摩子ども劇場理事長）・本会議副委員長